

[COMMUNION]

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.html>

tokyo/index.html

E-mail: comm.tko@nsk.k.org

PHONE: 03-3433-0987

FAX: 03-3433-8678

Diocese Office



祝 高橋宏幸主教按手

感謝

主教 フランシスコ・ザビエル 高橋 宏幸



主の平和をお祈り申し上げます。

この度1月14日に香蘭女学校礼拝堂において捧げられました主教按手式・東京教区主教就任式にお祈りを添えてくださいましたことを、この紙面を借りまして心より感謝、御礼申し上げます。

折々お話や文字を通してお伝えする機会は増えていくと思えますので、この度は以下のことだけを記させていただきます。

申し上げるまでもないことですが、主教の務めは一人だけでできるものではありません。共にある主教団、司祭団、聖職団、教役者の協力、協働をいただいでこそ豊かに育まれ、整えられていくものと信じます。もちろん、信徒の方々の支えなくしても成り立ち得ませ

ん。そのためには、人々の

声、ことに建設的な声、前向きな声、しかし同時に声にならないような細かい声に耳を傾けることを大切にするをもつてキリストの肢である東京教区が神様に祝福され、み心に適う豊かなものを生み出していくものとされますよう、そして神の民が整えられていきますよう祈り、努めたく存じます。時間を要するかも知れませんが、神様のためにかかる時間は大切にしてまいりたく思います。そのためにも、各教会グループ協議会や牧師協議会への訪問、教役者への訪問を通しての話し合いや傾聴を大事にしてまいります。

また、常に原点に立ち返り、思いを馳せ、今、そしてこれからを考えることは極めて大切なことです。そ

の原点とはイエス様のご生涯です。そのことのためにイエス様を私たちの働きや歩み、生き方の雛形とし、



イエス様の福音に頼ることを第一にしなければならぬはずで、また、「なぜ、

イエス様は弟子たちを選ばれ、この世に教会を立てられたのか？」という問いを聞かれたか？」という問いを聞いたか？」という問いを聞いたか？」という問いを聞いたか？」という問いを聞いたか？」という問いを聞いたか？」

かつて侘茶の創始者千利休は、「稽古とは一より習い十を知り、十より返る基のその一」という句を残しましたが、この心を大切にしたいものです。

最後になりますが、按手式の際、常置委員長中川英樹司祭が語られたメッセージを拝借します。「新しい主教を迎えた東京教区は、主教という存在にもたれかかるのではなくて、主教とともに常に一つの事柄を見つめながら祈りをもって、信仰をもって、神の声を聴く耳をもって歩み、主の愛を明らかに証し続けることができるそのような教区として今日ここから一緒に歩みだしてまいりたいと願います」。心強く、深い感謝を禁じえません。

皆さまの上に、神様の御恩寵をお祈り申し上げます。

東京教区主教按手説教要旨 主教 ゼルバベル 広田 勝一

本日はこうして東京教区主教按手式・教区主教就任式を迎えることができ、大きな喜び・感謝です。昨年9月1日の臨時教区会の主教選挙において高橋宏幸司祭が当選され、私たちは大きな喜びに包まれました。この主教選挙までに3回にわたる聖職会、また8月には信徒代議員の集いを実施してきました。聖職一人ひとりの召命を振り返り、主教職とは、そして主教と共にある聖職の姿とは何かを振り返りつつ、教区の新たな展望を思い巡らしました。日本聖公会において、ウイリアムズ主教から数えて100人目の主教按手順位となり、東京教区としては、10代目主教となります。

臨時教区会が開催された9月1日は、関東大震災から95年の時でした。95年前の1923年9月1日に発生した関東大震災は、教区の信徒、教会、施設に甚大な被害をもたらしました。未曾有の大災害のなかにあって、初めての邦人主教として元田作之進師の按手式が、震災後の12月7日、被災を免れた本郷聖テモテ教会でJ・マキム主教により執り行われました。これは復興を目指す大きな希望、また決意となり、新主教を中心に全力をあげて苦難に立ち向かい始めました。まさに「たとえ死

の陰の谷を歩むとも災いを恐れない」詩編23編、その信仰です。こうして初代東京教区主教が誕生し95年となりました。

私は北関東教区のある信徒から、ご自身の祖父である元田作之進主教が書かれた立派な扁額をいただきました。そこには三文字で「信如岩」(信仰、岩の如し)と書かれてあります。この香蘭女学校講堂において、第2回東京教区教区会が開催され、元田主教は、「教会堂は亡び、家財は焼かれても、信者の信仰にして動かされずは、(信者の信仰が不動であれば)、教区の生命は持続すべく、今日教区が着々として以前の健康体に復帰しつつあるは之がためである」と、信徒各自の信仰こそが最大の力であると語られています。関東大震災直後、マキム主教は本国に対し、「すべては失われり、しかし信仰は残り」と打電しました。元田新主教は、そのマキム主教と共に、唯一残された信仰を岩として、その後の教区、教会の復興の道を切り開いて来たことが伺えます。

聖書にも「主はわたしの岩」(詩18:3)など「岩」に関連する記述は数多くあります。「わ



たしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」(マタイ16:18)。元田主教は、岩の上に建てられた「信徒の集まり」教会の信仰によって教区が発展していくという希望をこの三文字に秘めているでしょう。教会は、信仰によって岩の如くしっかりと立つことができ、信仰の対象である神は、「主はわが岩、わが贖い主」(詩19編)です。神を信頼し、今をしっかりと生き抜く、そこに必ず神の大きな力が与えられる、これが聖霊の働きです。神は聖霊として今も働いておられます。按手の根幹はまさに「聖霊の充満」(聖霊が注がれること)です。

新主教には2つのことを心に留めていただきたい。まず自分のみ言葉を持つこと。生涯の目標聖句でもよいと思います。私、私は年間聖句テーマを定め、そこから日々振り返り一年を過ごしています。それは自分を常に原点に立ち返らせませす。また、東京教区に脈々と流れてきた大事なものの、精神、理念を探っていただきたい。

私の北関東教区は、教区に流れる理念のようなものがあります。それは「主はわが牧者である」(詩篇23編)という教区主教に受け継がれてきた聖句

です。マキム主教はこれについて、「事あるごとに自分が反省させられて来た言葉である」と語り、この聖句は代々の主教に伝えられました。それは、牧師であり、主教である自分に対して、その自分を牧しているところの大きなものが、厳然として在ることを決して忘れてはならないという誠めであり、絶対者、究極的真理とでもいうべきものが、常に私の前に立っているというキリスト教的確信を言い表すものです。そしてまた牧羊者の限らない愛を、象徴的に表現している、極めて深い意味を有するものでもあります。日本聖公会の形成に尽力された指導者たち、またそれに続く者たちがこの確信を持ちつつ歩んだ事実を大切に心に刻んでおきたいと思えます。

東京教区は、南東京、北東京が一つになった経緯があり、異なるミッションが一つとなって今日の教区を形成してきました。しかしながら、私たちを結び合わせるものはイエス様であり、私たちは主イエスにおいて一つとなつて存在です。こうした単純な真理を大切にしていける教区であつていただきたい。

主教とは使徒職の継承であると理解されています。そして、神が主イエスを「しもべ」としてこの世に遣わされたと同様に、使徒は、すなわち主教は、

イエス・キリストによって、「仕える者」「しもべ」として遣わされた者です。現在、使徒の仕事のあるものは司祭に、執事に、信徒にと委ねられています。その中で主教に残されたものは「手をおく」ことです。「手をおく」(按手)ということは「お

く人とおかれる人一つにならる」。それゆえに、教会は一つであり、まさに主教は一つである教会の「シンボル」の具現化なのです。

東京教区は、困難な中から新たな道を切り開き、今日に至っています。4年後の100年という区切りの年に向け、今こそ東京教区が何をすべきか、言い換えれば神は東京教区に何を求めているのか、神のみ心をしつかり見極め、神を主体として、新主教と共に一つになつて、変動の社会の中にあつても変わらぬ真理を人々に指し示していく教区・教会であつていただきたい。そして日本聖公会を牽引していく教区であつて頂ければと願います。「わたしは必ずあなたと共にいる」、堅い信仰の土台の上に建てられた、岩のような教区としての歩みを、新主教と共に謙虚に、力強く、真実に踏み出して下さるよう心より願っています。「まこと(真実)は地から芽生え、正義は天から注がれる」(詩85:12)。

新主教への期待

司祭 上田 憲明

高橋宏幸
主教に期待
することな
どを書いて



くださいという依頼を受け
ました。きっと東京教区

内外の多くの人が、いろい
ろな期待をしていることと
思います。主教選挙で選ば
れた後、最初に会った時に
宏幸主教が「本当にどうし
よう。選ばれちゃったよ。」
とおっしゃっていたのが印
象的でした。そのみんなか
らの色々な期待に答えたい
が、とてもできないもの、
そもそも人に期待する方が
おかしなものなど、様々な
期待を感じての一言と思い
ました。でも、彼は一方で、
どんな立場になってもどん
な局面になっても、「自分
は自分にできることしかで
きない」ということを、よ
く知っている人のように思
います。ですので、多くの
人の彼に対する期待は、裏
切られ、がっかり感を生む

こともあるのではないかと
思います。それにも関わら
ず「なんとなくそれでもい
いのかもしれない」という
安心感のようなものを生む
のも、彼が選ばれた理由の
一つだと思っています。

神学校の時の思い出など
も入れてくださいとの依頼
もありました。いくつか印
象的なことはあるのです
が、その一つは、彼はよく、
まずことわざを引用し、聖
書の言葉を引用し、そして、
またことわざを引用して結
論づけるというパターンの
発表をしていたことを思い
出します。わたしたち同級
生などからは、「それで結
局、言いたいことはどうい
うことなの？」となって、
そこを突っ込まれても、常
識的な範囲の答えをしよう
と頑張っていた彼の姿を思
い出します。杵や形があっ
て始めて、その中で自分ら
しさを発揮しようとするの
だと思いますが、その杵や
形が彼自身を安心させると
同時に、身動きしにくく

なっている姿を表していた
ように覚えていきます。杵や
形を破って、彼が自分を表
し始めてくれるのを期待し
ていましたが、なかなかそ
こには行ってくれないもど
かしさを感じていたことを
思い出しています。

高橋宏幸主教は、そうい



うわけで、杵や形、常識的
な範囲といったことを大事
にする人だと思えます。た
だ、その範囲を超えた自分
を表現しなければいけない時
には、いきなり「自分はこ
れしかできないので、これ
をやる」か「何もやらな
い」ということになる気が

してしまいます。上手にス
マートにみんなが納得する
ように、しっかりと周りとか
コミュニケーションを取りな
がら、してくれらることをみ
んなは期待すると思えます
が、僕自身は少し違ってい
て、「神様に祈り、主に信
頼する中で、私は今これを
する」というような主教に
なられることを、なぜか期
待しています。

新主教への一言

香蘭女学校理事長 横内 允

大畑 主教



と同じ立教
中学の出身
である高橋

新主教は、私の教え子の一
人ですが中学生時代の印象
は担当する学年が異なっ
ていたこともあってあまり
強く残っていません。当
時全国の強豪であったテニ
ス部の選手で、温和な性格
で何事もこつこつやるタイ
プでした。彼が時々チャペ
ルに出入りしていたことは
知っていましたが、まさか
牧師になるとは思っても

いませんでした。その後の
出会いは私が中学生を連れ
てマニラの学校を訪問して
いた時のことでした。当時
マニラのカトリック修道院
に留学されていた高橋司祭
の突然の訪問を受け、びっ
くりしたことを覚えていま
す。そして、その厳しい環
境に敢えて我が身を置く決
断をされた彼から、神に仕
える身の厳しさを改めて感
じさせられました。さて、
2003年に私が校長とし
て香蘭女学校に奉職した時
は、彼は三光教会の司祭と
兼務で既に学校に居られま
した。多分多忙な日々で
あったと考えて居ります。
特に、新たに就任した私が
キリスト教学校としての香
蘭の現状に強い注文をつけ
たこともあって、その仕
事が倍増したと思えます。
2004年に宗教教育の中
心であるキリスト教セン
ターを立ち上げ、彼にセン
ター長を依頼しました。セ
ンターは、その後宗教教
育の改革に乗り出し、今



となつて
います。
この軸は
単にセン
ターの軸
のみでな
く、ミッ
ションス

では礼拝・宗教講話・宗
教委員研修・校外での奉
仕活動・平和活動等多数
の部門を設け積極的に活
動しています。これらの
活動には、教職員が先頭
に立ち、生徒も進んで参
加しています。

10年以上の歳月をかけて
その基盤を築き上げて下
さった高橋主教に私は心か
ら感謝しています。ちなみ
に、センターの理念は次の
ようになっていきます。①

② 授
け入れ認めていく。③ 授
かりしものとしての命、生
きることを支え合い分け合
うこと。④ 自らに与え
られている賜を捧げ合っ
たり分け合ったりすること

クールとしての重大な使命
を持つ香蘭女学校の教育全
体の軸ともなっています。
学校の中で最も多くの人か
ら愛され人気があった高橋
主教、その温和の中にも強
い使命感とぶれない目標を
常に持ち続けこれからも愛
される主教として歩んで下
さるよう願っています。

新教区主教就任

聖愛教会 関ノリ子

フランシ
スコ・ザビ
エル高橋宏
幸主教様の



主教按手、教区主教就任お
めでとうございます。東京
教区のこれからをどうぞよ
ろしくお願いいたします。
私が高橋主教とはじめて

お会いしたのは、12年間牧
師をなさった聖愛教会にお
いででした。当時、お若かつ
た高橋宏幸司祭は大変活動
的で、人々の間を飛び回っ
ていらつしゃいました。教
会には若い人々がいて、楽
しい交わりがありました。

また毎週、夜に行われて
いた聖書会は勤め帰りの人
たちも集まって盛んでし
た。現在の教会員とは年齢
分布が違います。

〇学園のクリスマスのお
話をお願いしたことがあり
ました。壇上で話してい
らした高橋司祭は突然、壇上
から飛び降りてマイクを
持って、生徒の間を歩きま
わり、これには私が驚いて
しまいました。

優しいお母様思いの方
で、お母様ご存命中は毎年
夏に旅行にお連れになつて
いらつしゃいました。

その後、いくつかの教会
を経て、香蘭女学校のチャ
プレンになられました。
香蘭女学校では久しぶりの
専任のチャプレンでした

ので、毎日の礼拝、聖書会
など、キリスト教教育に取
り組んでくださいました。
若い生徒たちの間でお元
気に活動していらつしゃい
ましたが、健康には十分に
注意なさつていらして、か
つてお好きだった煙草もお
止めになっていました。

これからますますお忙し
い日々におなりですが、ど
うぞ健康にご留意なさつて
よろしく願ひいたします。

難しいお立場になられま
したが、それでもやはり、
組織の存続を優先に考える
のではなく、信徒一人一人
を大事にした、信徒に寄り
添った教会の再生を目指し
ていただきたいと、切望い
たします。

そして最後にひとつお願
いですが、教会には高齢者
が多くなつていきます。
ぜひゆつくりとお話をし
ていただいて、主教様のお
声を皆に届けてくださいま
すよう、よろしく願ひ申
し上げます。

「祈り」の深まる教区に

三光教会 鈴木一

祈りが生きることの基
本であることを身をもつ
て示されたのは高橋宏幸
師である。三光教会を司
牧された10年間、それに
続く香蘭女学校チャプレ
ンとしての7年間、常に
三光教会の早禱・聖餐式
を守られてから日々の職
務に就かれていたことを
私たち教会員は目の当た
りにしてきた。新主教高
橋宏幸師は「祈りのひと」
である。この1月末に新
宿区矢来町の主教邸に移
られてからも、朝5時に



神楽坂駅から電車で三光教会の早祷・聖餐式を守られて、それから香蘭女学校チャプレン（3月末まで）の務めと教区主教のお仕事を果たしておられると聞く。高橋宏幸主教の毎日が祈りに始まることに私たちは深い感動を覚え、そ



れを見つめてきた。祈りの原点は、自分の現在が主のみ旨にかなっているかどうかの問いかけにあることを教えていただきたい。例えば、8月にはこの国で多くの平和論が唱えられるが、私たちキリスト者

は「主のみ旨にかなう平和論・平和運動の視点を忘れてはならない」と厳しく説かれた昨年夏の師の説教が今も思い出される。

病者を訪ねての師の祈りに、どれほど多くの人とその家族が救われたことか。病床聖餐には時折お供したが、やさしくじつと見つめる師の励ましは、祈りそのものであった。

長らく東京教区管理主教であられた北関東教区主教・広田勝一師は、主教被選者高橋宏幸師を霊性と謙遜に満ちた人柄と称揚され、主教就任に贈る言葉として、日本人初の主教である元田作之進師の揮毫した「信如岩」（信「信仰」は岩のごとし）を引用された。この言葉は「主はわが岩わが贖い主」（詩19：15）に通じる。元田主教は主教按手式の直前に関東大震災が発生し、廃墟の中から東京教区を立ち上がらせた。震災1年後の教区会での元田演説（東京教区が）漸次

健全に復興しつつあることを思うとき、信者各自の信仰の持続がその最大原因なりしことをわすれてはならない」を広田主教は紹介されて、東京教区信徒を激励された。お心のこもる説教であった。

教区の現状は、或る意味で関東大震災後の状況にも通じるものがある。格差が増幅され、変動の激しい社会に在って、新主教のもとに一致して聖公会の信仰を保持し深めたいと願ってやまない。



「短歌五首」

高橋宏幸新主教の按手を寿ぐ

聖オルバン教会 吉松 英美

- ・新しき主教にわれらの期待あり
- ・道険しければともに歩まん
- ・祈り来しわれらの希い主応え給う
- ・茶の湯のごとひとつ碗を回して受けよと
- ・主イエス「仕えられるより仕えよ」と
- ・われら知る誠実謙虚は新主教の信条なるを
- ・課題多きを怖るるなかれ新主教
- ・難しき時こそ挑む価値あり
- ・聖公会数えて百人目の主教なり
- ・あらためて問う「道を傳へて己を傳へず」

《信徒リレーエッセイ》

五十年一昔

牛込聖バルナバ教会

古谷野 亘

「今日は10分で終わった。今は亡き竹田鐵三神父の言である。10分で終わったのは聖餐式。あまりに急いだせいか、あ

る時は聖別祷を飛ばしてしまつた。祭壇近くに跪いていた私が、遠くにいる河野裕道師（当時執事）の方を見るとすぐに止めるという合図。あわてて止めて、聖別祷をしていただいた。当時の文語祈禱書では聖別祷がちょうど見開き2ページだったので、1枚余計にめくると聖別祷を飛ばして主の祈りに行ってしまったのだつた。

あれから約五十年。ファーザー竹田も河野司祭も天父のもとに召された。当時中学生だった私も定年間の身となった。文語の式文も口語に変わった。しかし私は、今も聖卓の近くで奉仕させていただいている。跪座からの立ち上がりがつらくなつてはきているが、許されるなら、もう少し続けさせていたきたいと願っている。

●絶対権力は腐敗する

東京教区「正義と平和協議会」主催による第2回目の講演会を2018年12月1日(土)池住義憲さんを講師にお招きして教区会館3Fにてお話ししていただきました。

正義と平和協議会 講演会
「いま、9条があぶない！」
キリスト者として改憲の動きを読み解く
正義と平和協議会前議長 司祭井口 諭

講演会をお聴きしたわたしの思いを記します。

池住さんは、2008年4月に名古屋高裁より「自衛隊イラク派兵差止訴訟」で違憲判決を勝ち取りました。始めに、ジョン・アクトンの「絶対権力は腐敗する」という言葉を紹介されました。安倍内閣の第1次内閣は2006年から2007年までであり、2012年から現在までの第4次安倍内閣までの8年間続いています。始めから憲法改正を目標とします。麻生大臣はナチス・ヒットラーのやり方をまねたらどうかと言います。第1次世界大戦でドイツは敗戦し、平和憲法と言われ

たワイマール憲法が制定されます。その憲法の下でヒットラーは政権を取り、ワイマール憲法を変えてしまいたいがために全権委任法という法律をつくり通過させます。ヒットラーは第2次世界大戦を始めます。

●憲法と法律

安倍総理大臣は、憲法99条にあるように天皇及び国会議員、裁判官、公務員はこの憲法を尊重し擁護する義務があることを知らないようです。

憲法は国政を司る者たちを規制するものです。法律は国民を規制します。安倍総理はそれを知ってか知らずか、自分たちが縛られるのが不満なので、現行憲法を変えようとしています。モリ・カケ問題では、自分の妻が名誉校長をしていた森友学園を建てるとき、財務省の付度によって3分の1程度の値段になります。加計学園獣医学部創設の認可は、加計さんが安倍総理のお友達だったので、文部省の付度で早まりました。モリ・カケ問題は知らぬ存ぜぬで過ぎてしまいました。現在、毎月勤労統計の不正が発覚しています。この統計は、雇用保険や失業保険、景気の動向にかかわりますが、与党が多数なので、

これも上手くやり過ぎすつもりです。

●改憲案前文

2012年に安倍内閣は、自由民主党による憲法改正案をつくりました。草案の前文は「日本国民は、国と郷土に誇りと気概を持って、自ら守り、基本的人権を尊重するとともに、和を尊び、家族や社会全体が、互いに助け合って国家を形成する」とあります。安倍内閣だけでなく、この草



案をつくった自民党議員たちは、憲法は自分たちを規制するものだというのを忘れていきます。国民を規制しようとしています。国民は、「自らを守り」とありますので、国家は「いずれ国民を戦争に狩り出します。徴兵制は、前文に巧妙に潜ませてあります。」

●改正案第1・3・9・20・21条

第1条 「天皇は日本国の元

首」だそうです。天皇は、現人神になります。

第3条 「国旗は日章旗、国歌は君が代」で国民は尊重しなければなりません。「元号を制定する」のです。日の丸・君が代のとき、立つて歌わなければ罰を受けません。元号も用いなければなりません。個人の信念が制限されます。

第9条 「内閣総理大臣が指揮する国防軍を保持する。国防軍に審判院をおく」規律に違反した者は軍事裁判にかけられます。どんな命令であつても従わなければなりません。

第20条の3 「信仰の自由は認める。但し、社会的儀礼又は習俗的行為は、この限りではない」とあります。わたしたちのキリスト教信仰は認められます。但し、偶像崇拜を戒めるわたしたちの教えに反して、神社参拝を強制されることになります。

第21条 「集会、結社及び言論、出版その他、一切の表現の自由は、これを保障する。」これに「前項の規定にかかわらず、公益及び公の秩序を害することを目的とした活動を行い、並びにそれを目的として結社することは認められな

い」を追加します。権力者が「公益及び公の秩序を害する」と判断すると表現の自由はなくなりませう。

●ヒットラーの全権委任法

特に、次の第98条は問題です。「内閣総理大臣は、我が国に対する武力攻撃、内乱等による社会秩序の混乱、地震等による大規模な自然災害その他の法律で定める緊急事態において、特に必要あると認める時は、法律に定めるところにより、閣議にかけて、緊急事態の宣言を発することができる」とあります。これは、まさしく、麻生大臣が言っていた平和憲法を機能させず戦争へと向かわせるナチス・ヒットラーの全権委任法です。

●隣人愛

わたしたち信仰者は、これらの自民党改憲案に反対の意思を示さなければ、賛成していると思われられます。

預言者イザヤは、「彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かつて剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」(2:4)と言います。

「隣人を自分のように愛(大切に)しなさい」がわたしたちの平和憲法の礎です。

女性司祭按手20周年記念
に想う

司祭 上田 亜樹子

司祭按手の条件として法
憲法規に明記されていた「男
性であること」という文言
がついに取り除かれたのは
1998年のこ

と。その日本聖公
会総会決議により
道が開かれ、同年
12月に中部教区の
渋川良子司祭が按
手を受けてから
20年の節目とし
て、「新しい歌を
主に向かつて歌お
う」というテーマ
のもと、女性の司
祭按手20周年記念
プログラムが行わ
れた。女性教役者
のための一泊黙想
会がナザレ修女会で行われ
た翌朝、感謝記念礼拝が聖
アンデレ教会で捧げられた。
各教区や海外からのゲスト
も迎え、日本聖公会成立以
来の宣教史や新作コントも
紹介される祝会のひとこま
もあった。あれから20年、



と感慨に耽るのではなく、
現時点での課題を再認識し、
これからなすべき事を再評
価する機会が、豊かに与え
られたことに感謝したい。
英国聖公会のテリー司祭は
説教の中で「私たちはかつて

追放されてい
た者。『よそ
者』として処
遇された記憶
こそが、社会
の中で分け隔
てられている
とはどういう
ことなのかを
理解し、その
人々と連帯す
るのに助けと
なる」と述べ
た。社会にお
ける様々なか
たちの差別は

「終わった」わけではなく、
その渦中では手足をpushさえず
まれたように身動き出来ず、
とりあえず踏みとどまって耐
えることしかできない時もある。
しかしその体験こそが、
変えていかなければならない
現状の本質を見抜き、変革へ

の力となり、やがて踏みつけ
にされている人々に寄り添う
原動力となるという示唆を与
えられた。また、「新しい歌
を歌おうとする時、未知の世
界に不安を感じる人々はたく
さんいる。何かを失うだけな
のではないかと心配するあま
り、現実を直視することがで
きなくなることもある」とも
語った。小さなことから大き
なことまで、思い当たること
は多いが、聖書の様々な物語
を引き、「恐れるな」と私た
ちに呼びかけられた。

今回私たちが「記念」した
のは、20年という時間やそれ
までの苦労ではないと思う。
果たしてこの20年間、私たち
は本当にイエスの福音を伝え
てきたのかと自らに問い、ま
た日本聖公会全体に問うたの
ではないかと感じている。そ
してこれから「新しい歌」を
歌いながら、私たちが大切に
してゆくべきことは何なのか
と。つまり、すべての欲や圧
力を超える「愛」の存在を知
ること知らせること、利益や
損得に左右されない心と霊の
本当の自由を求めること、そ

して、ゆるしゆるされること
の本当の価値。「よそ者」だつ
た私たちが貢献できること
は、まだまだたくさんある。

モニカ会便り

聖職候補生、志願者を支
えてゆぐために

モニカ会会長 佐藤 正光

いつもモニカ会にご支援を
賜り心より感謝申し上げます。

モニカ会は、東京教区が認
めた聖職候補生および志願者
に対して、聖公会の神学院、
神学校での勉強を支えるため
に、図書費、家族費等の支援
を行なっています。モニカは
聖アウグスティヌスの母聖モ
ニカのごとく、夫や息子のた
めに献身した守護聖人として
知られ、神学生を支えるとい
う意味で会名としております。
モニカ会は東京教区の委員
会ではなく任意の団体です
が、小笠原を除く教区の全教
会から幹事を選出していただ
き、幹事全員の合議のもとに
運営しています。幹事の中か

ら私を入れて8名が常任幹事
として選任され、予算決算を
始め議案等を協議し、年2回
の定例幹事会で提案し決議し
ます。現在は神学生への支援
金(図書費)月額7万円、家
族がいる神学生に対する支援
金月額2万円を支給していま
す。他教区の神学生にも目を
向けるという目的で、神学院
に毎年寄付も行なっています。
金額は毎年幹事会で決
定していますが、昨年度は
100万円を寄付しました。

モニカ会は聖職をめざす人
を支え、教区がより活性化す
るために、神学院との懇談会
を行い、今年度からは教区の
聖職養成委員会とも協力して
ゆくよう懇談会などを行なっ
ています。幹事会では、将来
聖職として奉仕して下さる
聖職候補生が増えるにはどう
したらよいか、教区の聖職養
成委員会とも協力して議論し
ております。どうぞ聖職候補
生、志願者への皆様のお祈り
とご支援をこれからもよろし
くお願い申し上げます。

高橋宗瑠講演会報告

「今パレスチナで何が起きているのか」

サラーム・パレスチナ

前回のコミュニケーションで案内した講演が1月19日行われました。その趣旨やいきさつについてはクリスマス号をご覧ください。

関晴子姉の美しいピアノ演奏3曲に心ほぐされて開始しました。

始めに高橋さんが言われたのは、一般的に人々が持っている「イスラエル・パレスチナ戦争」に対するイメージと実際がいかに違うかです。あらゆる近代兵器を装備したイスラエルと、投石か火炎瓶あるいは打ち上げ花火にも似たロケット弾しか持たないパレスチナとでは対等な戦争と呼べるものではなく、力の差で一方的に迫る和平交渉は成り立ちようがありません。

1940年代以降、ユダヤ人がこの地に移住し、国連決議によりパレスチナが分断され、その後イスラエルの植民

地とされてゆきました。そこで起こっているのは軍事占領

下での土地と資源の収奪・民族浄化であって、宗教の問題ではないことが一般に理解されていません。

お話の前半は、ガザとヨルダン川西岸地区でそれぞれイスラエルによって行われている人権侵害、国際法違反の様々な行為が映像を使って説明されました。

後半は「どうしてこのようなことがまかり通るのか」を、イスラエルとアメリカの結びつき、近年イスラエルとの関係を強める国が増えてきた国際情勢について解説されました。詳しくは著書「パレスチナ人は苦しみ続ける」に書かれています。要点は、

① アメリカの政治はイスラエルロビー、一部富裕層、軍需産業等々から政治家への献金、またその働きかけでマスコミや大学などまでも動かして作られた世論の影響を受けて、イスラエル支持が強まっています。キリスト教原理主

義者の影響も大です。

② 欧米の一部、ブラジル、インドなどで極右勢力が台頭し排他的になり、軍国化も見られます。イスラエルと手を組み、ガザで実験済みの「ハイテク兵器」や「セキュリティ・監視システム」までも輸入しイスラエル支持にまわっています。

③ イランを敵視するサウジアラビアやアラブ首長国連邦がイスラエルに接近し、パレスチナを誹謗中傷、イスラエル支持の宣伝工作を行っています。

これらに対抗するには国際世論が手を繋ぐこと。BDS（イスラエル製品の不買）運動も効果を上げつつあるし、私たち市民にもできることがある。BDS運動に参加する、イスラエル企業と提携する日本企業に圧力をかける、政府に働きかける、署名運動、周囲の人たちに知らせる等々です。どんなに小さな運動でもパレスチナにとって助けになるとの言葉に大いに励まされました。

【書籍紹介】

「サビールの祈り」

ナウム・アティーク著

(岩城聰訳)
教文館から刊行(2200円+税)



著者はパレスチナ難民となつて育ち、エルサレム聖公会の司祭となり、宗教を超えた平和への協働の道を求め1089年「SABEEL」

を設立しました。どのように人々に聖書を教え導いてきたのか、聖職者人生の集大成というべき著書です。「赦しとは？」心深く思いめぐらすことでしょう。和訳書出版を願う多くの仲間の思いが実り刊行となりました。

次回 イースター号

4月21日発行予定

ちょっと聖書、ときどきユーモア(四十一)

1. 十 戒

信徒「世の中には規則・決まりが多すぎて、とてもきちんとは守れないよね」
神様「規則が多いから守れないって… たった10コだって守れないじゃないか」

2. 主婦

信徒1「これからの時代は、家庭の主婦が日常の中でキリストを伝えていく時代だね」

信徒2「それは大切なことだね・・・」

信徒1「そういう主婦を何ていうか知ってる？」

信徒2「・・・」

信徒1「宣教主婦って言うんだよ」

3. 斬新な教会名

信徒A「教会が合併すると新しい教会名を考えたり、公募したりするよね」

信徒B「そうだね、でもこれからは地名とか聖人の名前を入れた〇〇教会といった名前、いや、いっそ教会という言葉も使わない斬新な名前がいいと思うんだ」

信徒A「なるほど、たとえば？」

信徒B「そうだなあ、山手線の新しい駅名にあやかって『天国ゲートウェイ』なんていいんじゃない」

(注：ゲートウェイには「入口」「通路」「門」などの意味がある)